

## NEWS LETTER

2026.3.31  
第8号編集発行：一般社団法人 福岡県言語聴覚士会 失語症サポート委員会  
事務局：福岡市早良区百道浜3丁目6-40 TEL:080-1776-5108

皆さん、お元気ですか？



事業8年目の2025（令和7）年度、**養成事業**は7名の新たな受講者を迎えました（必修科目40時間）。

前年度同様、集合研修はオンライン（6月）と対面集合形式（7月）で2日ずつ行いました。以降は友の会・サロンでのコミュニケーション支援実習を実施し、スケジュールを組んで受けて頂いています。2月には外出同行支援実習を、屋内（スマホ買換手続き）・屋外（ショッピングモールでの買物）の2パターンで行いました。

11月には登録支援者への**フォローアップ／選択科目研修**を実施し、参加は22名でした。

内容は①講義（事業報告、派遣手続き、個人情報保護・緊急時対応）、②交流会（要点筆記を活用した自己紹介など）、③失語症岐阜大会報告、④コミュニケーション支援実習（団体/友の会支援）。事業の実際を知り、実践的な支援を学ぶ研修として、内容を変えながら毎年開催しています。ご参加をお待ちしています。

必修研修、フォローアップ研修ともに、参加者はより良い支援に向けて真剣に学んでくださっています。和やかな雰囲気です。支援者・事業スタッフが交流し、率直なご質問や感想を伝え合う姿がみられます。

**派遣事業**は、個人6件と団体27件（支援者60人）、計33件に支援者66人を派遣しました。

個人派遣は、住宅申込、ハローワーク・区役所での手続き、歯科受診への同行でした。

団体派遣は友の会・サロンの定例会のほか、**2月1日「失語症 福岡県の集い」**（主催：失語症会話サロンの会「あんど」、共催：福岡県言語聴覚士会、後援：福岡県）に支援者22名を派遣しました。福岡県の失語症者・ご家族・関係者が集まって交流するのは十数年ぶりでした。毎日新聞・西日本新聞が、失語症の方や御家族の声、集いで意思疎通支援の様子などを記事に下さっています。（p2、3参照）

2026年3月末で、福岡県の登録支援者は47名、派遣件数は2021年度からの累積で個人25件、団体60件（118人）となりました。地域の偏り（福岡・北九州地区>>筑豊・筑後地区）、個人派遣のニーズ掘り起こしが引き続き課題です。福岡県言語聴覚士会HPの事業ページや、SNSなどを通じて、関係者が情報を受け取りやすくなるようにしてまいります。

福岡県では現在、**団体派遣（交流の場支援）**が**個人派遣（同行支援）**よりも多く利用されています。

交流の場の支援の重要性と難しさは、個人派遣とは異なることを、「福岡県の集い」で改めて感じました。失語症の方の情報が少ないなかで支援が始まることもありますし、失語症の方同士をつなぐ橋渡しも課題となります。支援の基本と応用スキルを磨き、会話を助ける道具（紙とペン、地図・カレンダー、スマホなど）を活用し、相手と心を通わせながら、周りとの協力して落ち着いて支援できればと思います。（p5 支援のポイント参照）

2025年6月には失語症全国大会（岐阜）を視察参加し、あたたかく素晴らしい時間を体感して戻りました。これから2026年9月12日の全国大会（佐賀）のあと、**2027年度には福岡県で大会開催を予定**しています。

県内や全国の交流を通して支援を学び、実践したいと思います。ぜひ一緒に！どうぞ宜しくお願いします。

難しかった経験、良かったこと、工夫を共有しましょう スタッフにも声をかけて下さい。失語症サポート委員会一同

P1：2025年度の概要報告

P2～3：「2025年度失語症 福岡県の集い」報告  
毎日新聞・西日本新聞記事（掲載許諾済）

P4～5：2025年度 失語症支援・交流の場の様子

P5：交流の場での支援のポイント

—「福岡県の集い」の振り返りを踏まえて—

内容/写真の無断転載不可

ニューズレターは、支援事業の情報を年度毎にまとめることで、失語症支援に関心のある方が事業を理解し、失語症の方・関係者・事業につながってくださることを願って発行しています。

※バックナンバー（第1～7号）を福岡県言語聴覚士会HPに公開しています

# 活動報告

## 2025年度

# 失語症 福岡県の集い

### 2026.2.1 ふくふくプラザ(福岡市中央区)

支援者22人を派遣



- ・県内の失語症当事者・ご家族58名を含む計91名の方にご参加頂きました
- ・支援者・学生・専門職が連携し、安心して参加できるあたたかな場所となりました。



**集い**は 友の会参加者や家族アンケート(会話したい、情報を知りたい)から内容を構成しました。

**交流会**では ひとりひとりの失語症の方に合わせて 要点筆記などの会話支援を行い、笑顔のやりとりがみられました。失語症の方々にもマイクが回り、たくさんの声を聞かせていただきました。

**家族相談会**では 個別の悩みにも寄り添い、経験の長いご家族からの助言もありました。

**終了後** 「楽しかった」「また会いましょう」といった嬉しい声が寄せられています。

## 【本日のプログラム】

- 13:00 (30分) 1. 開会挨拶  
失語症サロンの会「あんど」代表 吉本 昌子
- 2. 来賓挨拶  
NPO法人日本失語症協議会 理事長 園田 尚美
- 13:30 (40分) 3. 参加者紹介
- 14:10 (10分) 4. 「福岡県 失語症者向け 意思疎通支援者派遣事業」について  
--- 休憩 (10分) ---
- 14:30 (45分) 5. (第1部) 交流会 **グループ内で自己紹介**  
--- 休憩 (10分) ---
- 15:25 (45分) 6. (第2部) 交流会 **ゲームなど**
- 16:10 (10分) 7. 全国大会報告(2025年岐阜大会)  
\*次回佐賀大会(2026年9月12日)の案内
- 16:20 8. 閉会挨拶
- 16:30 終了

### 「同時開催」「ご家族のための相談会」

NPO法人日本失語症協議会

\*失語症のある人のご家族を対象とした相談会  
日頃の悩みや不安など、お気軽にご相談下さい

14:30 / 16:30



友の会に参加する当事者・ご家族の声や「福岡県の集い」の案内が記事に掲載されました

「支援の人たちが、私が本当に伝えたいことが言えるまでじっくり待ってくれたり、引き出したりしてくれるのでとても話しやすい」

「情報を共有でき、家族の交流もできて助かる」

毎日新聞 2026年1月30日朝刊  
【許諾番号C14048】

「失語症に関するイベントを成功させたいね」と語り合う小崎敏昭さんと妻寿子さん



## 当事者や支援者が情報交換

# 失語症広がる支援の輪

## 来月1日の福岡皮切りに「交流会」

脳卒中や事故で言語 ひや失語症を抱える。どこに喜び、「情報を共有」をつかさどる脳の部位 脳出血直後は会話ができ、家族の交流もが損傷し、会話や読み とんどできず、言いたくても出てこない。失語症、福岡市で2月1日、きてもかかかったに開かれる「集い」をいう。小崎さんは病院が開き、交流会や支援者情報交換、交流会や当事者同士の交流するイベントが、流の場に21年から妻寿子(64)と参加して、意図疎通の支援度もあり関係性は、解と準備している。失語症は外見に障害が分かりにくく、症状も人によって異なる。北九州市に住む小崎敏昭(66)は、2019年末に脳出血で倒れた後遺症で右半身のま

福岡県内では、失語症サロンの会「あんど」が2月1日午後1時、福岡市中央区荒戸3の市民福祉プラザ6階で「失語症福岡県の集い」(参加費500円)を開く。県内では27年に全国大会が予定されており、機運を高める狙いも。小崎さんは「自分も最初は出かけるのが怖かった。でも仲間とのやりとりは宝物。イベントを成功させたい」と力を込めた。問い合わせは県言語聴覚士会(080-8376-0084)。(田後真里)

# 失語症の集い

## ゆっくり話し じっくり聴く

脳卒中などの病気や事故によって脳の言語中枢が損なわれる「失語症」。相手の話が理解できない、言葉が出ないといった症状が、家に引きこもってしまう人も。そんな人たちが安心して交流できる場が友の会やサロンだ。福岡県内で活動する団体が十数年ぶりに一堂に集る集いが1日、福岡市内で開かれた。ゆっくり話し、じっくり聴く。初対面の人も、笑顔がはじけた。

(酒匂純子)

**失語症**

脳の病気や事故によって起る高次脳機能障害の一つ。①言葉は理解できるが「話す」「書く」が難しいブローカ失語②言葉の理解が困難で、流ちょうに話せるが意味が通じにくいウェルニッケ失語③言葉の理解も話すことも難しい全失語など、脳損傷の部分や度合いによって症状が大きく異なる。全国に20万〜50万人いるとの推計があるが実態は把握されていない。心理的要因で声が出なくなる失声症や、のどや舌などの問題でうまく発声できない構音障害とは異なる。

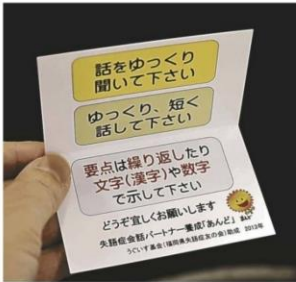
**ワードBOX**

県内には北九州市「あすの会」の会▽福岡市「あんど虹の会」▽大野城市「あ



失語症の集いでは、意思疎通支援者が失語症の人にゆっくり話したり、紙に文字を書いたりしてコミュニケーションを取っていた。1日、福岡市の市民福祉プラザ

失語症の人が持ち歩いているカード。支援してほしい方法を書いている。



### 社会で 理解を深めて

### 励まし合える交流の場

いたか▽柳川市「柳川失語症交流会」の6団体がある。各団体は1月から3月までに1回交流会を開き、さまざまな人が参加している。当事者や家族を中心に、リハビリなどを行う専門職の言語聴覚士、コミュニケーションを助ける意思疎通支援者、ボランティアなどが、来年、福岡県で全国大会が開かれるのを前に、顔見知りを増やしたいと企画した。この日は約90人が集まった。

十数人ずつのグループに分かれ、テーブルに着く。当事者の隣に意思疎通支援者が付いた。まずは自己紹介。テーマは「福岡県に關して好きな人やもの」。当事者は配られた紙に書くこととするが、手が止まる人や、書きたい文字と違う文字になる人も。支援者は様子を見ながら「好きなのは、ものではなく人ですか?穏やかに尋ねる。「はい、いいえ」で答えられる質問だ。地名が話題になると、

イメージしやすいように地図を出し、「この辺ですか」。ゆっくり、短い文で話す。時には繰り返したり言い換えも。当事者のペースに合わせて言いたいことをじっくり引き出す。書き終わる、いよいよ発表の時間。言葉に詰まっても、みんな笑顔で拍手が湧いた。失語症は、ある日突然、目覚めたらなっていた、という人が多いそう。

大宰府市の古賀達也さん(74)もそうだった。3年半前、脳梗塞で倒れた。急性期の病院にいた頃の記憶はない。自由になってきたことが突然でなくなつた。自信がなくなつた。リハビリの病院から退院し、家にこもる日が続いた。妻のさとみさん(66)もつらかった。夫の言っていることが分からない。あちこちに相談して行き着いたのが、あいつたか。言語聴覚士に人と関わり社会生活を経験することで、自然とリハビリになりました。自然と励まされた。

無理やり連れ出して一緒に参加するうちに、夫の様子が変わってきた。通い始めて1年近くになる。古賀さんは、今では地域のボランティア活動にも参加する。この日も多くの人が出会えてうれしかった。

どんな障害があつても、個人の尊厳や生活が守られるのは当然のことだ。そのためには意思疎通できる仕組みが欠かせない。

聴覚障害者に手話通訳や要約筆記、視覚障害者に点訳や音声訳があるように、失語症の人には意思疎通支援者の制度ができた。

ただ始まったのは2018年度と日が浅い。外側から見えない障害である上、当事者から自らの思いを言語化しにくく、失語症の理解が広がっていきなかつた。

福岡県では県言語聴覚士会が意思疎通支援者の養成と派遣の事業を受託し、47人が登録している。今回の集いのような団体活動への派遣(これまで56件)のほか、病院の受診や運転免許証の返納手続き、携帯電話の機種変更など個人の利用(同56件)もある。徐々に定着しているが、地域の偏りなど課題もある。

福岡県言語聴覚士会で意思疎通支援事業を担当する高橋雅子さんは「失語症の人は遠慮や我慢を重ねてきたかもしれないが、大切な制度であり、堂々と利用してほしい」と呼びかける。自身も意思疎通支援者として関わる友の会について「励まし合える交流の場。これからの日々、気持ちよく向けられる大事な会にしていきたい」と語る。

### あらゆる場面で理不尽な壁 コミュニケーションは人権の基本

失語症の人は日常のあらゆる場面で理不尽な壁に直面している。コミュニケーションの障害が深刻でも、障害等級は3級と4級しかない。リハビリの期間も短く、十分な機能訓練や福祉サービスを受けられない。

昨年亡くなった失語症の夫は、かつて当て逃げられた際、言いたいことを伝えられなかった。認知症などと誤解されて適切に対応されないこともある。特に警察官など市民の身近にいる人は理解を深めてほしい。

国や国会議員に働きかけて事業が法律に乗ったことにはありがたい。ただ、まだ足りない。法律上は日常生活支援だけで、離婚訴訟や警察の尋問などは対象外。失語症の人の人権が侵害されている状況だ。コミュニケーションは人権の基本。最も大事なのは、全て自分で決めるということだ。

× × ×

NPO法人「日本失語症協議会(東京)理事長の園田尚美さん(78)に、失語症の意思疎通支援事業について課題を聞いた。



NPO法人「日本失語症協議会」理事長 園田尚美さん

会話支援の様子が具体的に説明されています

**あすの会**(ウエルとばた)

毎月 第2日曜日 午前



楽しく会話しています！

例会には家族、会話パートナー、意思疎通支援者もいて、楽しく安心して過ごしています。月毎にテーマを決めて、ゆっくりじっくり聞き合っています。3月は「会いたい人」。思いに触れる時間になりました。今年も北九州市の「ふれあい広場」に歌で参加し、バスハイク(芦屋釜)にも出掛けました。

例会ブログはこちら➡<https://andfuku.normanet.ne.jp/>

**筍の会**(小倉リハビリテーション病院)

奇数月 第2土曜日 午後



新規の会員の方、特に女性の参加者の方が増え、よりにぎやかな会となりました。久しぶりに集合写真も撮りました。また、「全国大会」や「県の集い」に参加された会員の方もおられました。来年度こそは、会のみんなで外出ができるの良いなと思っています。

**集団言語リハビリ交流教室**

(北九州市立障害福祉センター)

第1・2・3 木曜日 午前



2025年度もリストバスを利用した「社会参加体験事業」を実施し、田川市の「田川市石炭・歴史記念館」に出かけました。

バス車内での会話や見学、地元の新鮮な野菜等の買い物を楽しみました。

**失語症会話サロン**

(ふくふくプラザ)

毎月 第3日曜日 午前

月に1度、失語症のある人が集まり、失語症者向け意思疎通支援者とともに、安心して会話を楽しむ交流会を開催しています。2025年度は、その特別企画として、スイーツパーティー『九州・福岡の銘菓食べ比べ』を実施しました。地元の銘菓を味わいながら、参加者同士が自然に会話を交わし、笑顔あふれるひとときを共有しました。



東京 ひよこ 博多 ひよこ

**虹の会**(福リハ友の会)

定例会:年3回 失語症カフェ:不定期



7月、10月、3月に定例会を開催しました。また、9月には初めて失語症カフェを開催し、皆さんの近況を語り合いながら、バスハイクの企画を皆さんで作りました。失語症カフェはお悩み相談やじっくりと話ができる場として来年度も継続予定です！

**柳川失語症交流会**

(柳川リハビリテーション病院)

奇数月 第2土曜日 午前



“初めまして”から“お久しぶり”へ

年6回皆さんと近況を語り、四季折々の話題を楽しんでします！他にも書初め、ゲームなど。

定期的に関わり合いを持ち続けることで、当事者の方はもちろんご家族同士や失語症意思疎通支援者とも顔見知りとなり、元気をもらえる場所となっています。

## 筑紫地区失語症友の会

あいたか(大野城市コミュニティーセンター)

偶数月 第2日曜日 午前



失語症友の会あいたかでは、偶数月に開催をしています。大野城市コミセン談話室での定例会、近隣への外出支援を行っています。

2025年度は国立博物館、太刀洗平和祈念館、福岡タワーなどへ行きました。

来年度もどこへ行こうか楽しみです。

来年度も活動していきます！



派遣で伺う以外にも、また行ってみたいと思ったら、スタッフに声を掛けて下さい。ボランティア参加もお待ちしております。

- ・失語症はおひとりおひとり違いますので色々な方と接することで支援の力がつきます。
- ・グループ内をつなぐ橋渡しの役割も意識して関わると、さらに支援スキルが上がります。
- ・暮らしの様子、楽しみや悩みを教えてください。支援にも必ずプラスになります。

## 交流の場での支援のポイント

「福岡県の集い」支援者・スタッフの振り返りから4つの視点でまとめました  
他の方の支援に感心する声も・・・貴重なご意見・感想を有難うございました

## 1) 全体の進行・内容理解の支援



- 伝える情報は、失語症の方の理解に配慮して準備し、提示する  
→ ゆっくり、要点を強調し、短く話す。視覚情報(文字)も同時に伝える  
・中央スクリーン提示、配付資料 → シンプルに  
・別スクリーンに要点筆記を提示 → 見やすい位置に大きく、練習も必要  
★通常の友の会では「ホワイトボードでの板書」を活用する
- 失語症の方が「見ているか、聴いているか、理解しているか」観察する  
→ 状況を見て誘導、配付資料や要点筆記で理解を補う

## 2) 1対1の会話支援



- ゆっくり話し、じっくり聴く 相手のペースに合わせる
- 要点筆記を積極的に活用する 選択肢の提示は文字も添える
- 紙とペン、地図、カレンダーを準備、スマホ・描画も用いる
- 初めて会う方/情報が少ない方には  
→ 笑顔で挨拶し、ゆっくりと会話を進める 聴く・話す様子を伺いながら、要点筆記の理解や、書字や身振りを観察しながらやりとりする
- 発表場面では、普段よりことばが出にくくなる方も  
→ 発表準備(要点筆記)、様子を見て一緒に少しずつ言うなどの支援を

## 3) グループ交流の会話支援



- 失語症の方同士の交流を“橋渡しする役割”を意識する
  - ①場の雰囲気をおたたく(笑顔でゆっくり話し、顔を見て頷きながら聴く)
  - ②「これから何をするのか」の理解を確認する
  - ③待つ・見守る(失語症の方々の自発的な言動を待つ)  
→ 失語症の方(や他の支援者)がリード役をする場合は、サポートに回る
  - ④声をかける(発言を促す、発言機会が偏らないように配慮する)
  - ⑤グループ内の発言も要点筆記し、流れを確認しやすくする
  - ⑥まとめる場面では、失語症の方の意見を尊重し、中立的に関わる
  - ⑦グループ交流に不慣れ/苦手な方に配慮する  
→ 交流を無理に促さず、1対1の支援を続ける その方の気持ちに寄り添う

## 4) 楽しく参加し無事に帰宅するために

- 体調確認、休憩・水分補給・トイレなどの声かけを行う
- 様子に注意し、気になることはスタッフに伝え、一緒に対応する